

第5回

中原悦夫 先生

医療法人社団 協立歯科 クリニック デュボワ 院長

トップ経営者にお聞きしました

※聞き手 藤本 飛呂



本日お越し頂いた中原 悦夫先生は、帝国ホテルプラザ4階において「協立歯科 クリニックデュボワ」を開業されています。優れた歯科医・経営者としての現在を、さまざまな視点からお話し頂きました。

藤本 先生は、帝国ホテルという文字通りの一等地で開業していらっしゃるんですが、これは誰もができることではありません。

そこで今日は、現在までの経緯と「何故、帝国ホテルなのか」ということを、経営の側面も含めてお聞きしたいと思います。

中原 帝国ホテルの前は、恵比寿で15年間開業していたんです。最初の2年は保険診療でした。自費診療に変えて13年経った時、運良く帝国ホテルで開業できる機会をいただき、今年で10年になります。

恵比寿では、コストをかけずにどの程度のことのできるかを考えていましたが、スペースの問題も含め、いろいろと限界が出てきたんです。当時は歯科の中でも、歯周病、矯正、小児、予防、審美など、それぞれが専門科として分かれていました。私は、逆にそれをもう一回東ねようと考え、まず最初に、全ての科を統一するというコンセプトを立てたんです。

そして、それぞれの科に、私自身が診療を受けたいと思える腕前の先生、あるいは私と同じコンセプトを持つドクターに協力して頂こうと考えました。そのような先生方が都内や地方に分散していたなら、患者さんは個々に足を運ばなくてはならず、効率的な治療はできませんから。

その意味から、患者さんにとっても、ドクターにとっても、帝国ホテルは最高の場所であると思います。ホテルの中の診療所ですから、そのまま宿泊できますし、日帰りのオベであっても、1泊休んで帰って頂

く方が安心です。実は、ホテルで開業する構想は以前からありました。帝国ホテルでしたら安心感も一番ですから、アプローチしてみた、というのがきっかけです。

藤本 わかりました。いまは何人ぐらいの先生が、こちらで診療なさっていますか？

中原 常勤、非常勤を合わせて7名ないし8名です。全員、専門が異なります。

藤本 どのような先生方ですか？

中原 矯正、顎関節の専門で頸部のマッサージだけやる先生、麻酔だけを担当する先



生、歯の根っこの治療だけの先生、あとは高齢者の内科、認知症の専門医ですね。

この10月からは美容精神科を設けて、形成外科を専門としていた精神科の先生に来て頂きます。形成外科や美容外科に通院される患者さんは、多くの悩みを持っていらっしゃるの、今後ますます必要になると私は考えています。精神科は、なかなか診療を受けに行きづらい場所です。厚生労働省で心療内科を作りましたが、やはり通院していることを他人には知られたくない

ものです。

アメリカのトップ企業の経営者は、必ずメンター（Mentor：優れた助言者）を持っています。それと同様に、精神科は常にお友達であり、良い弁護士、良い主治医を持つと同じなんです。クリニックに精神科の分野を作ることは、整心精神科、美容整心精神科の2つを重ねて、健常者であっても美容や心にネガティブな要素のある方のスイッチを、ポジティブな方向に切り替えたい、という思いがあるんです。

藤本 なるほど、単なる歯科ではないんですね。それと、これは下世話な言い方かもしれませんが、帝国ホテルで開業となりますと、お家賃も相当高いのではないのでしょうか。恵比寿時代との違いを、どのように解決されているのでしょうか？

中原 これに関しては、経営の見方だと思います。一般的資本主義の論理で言えば、経営とはバランスシートの質を問うものです。この観点からしますと、歯科を含めた医療は、最初から収支が合わない。収益のバランスシートをきれいに見せようと思うと、まともなことができないのです。

保険診療においては、国の方針があるわけですから、自分の治療方針を曲げてでもそれに従わなくてはなりません。実際、歯科であれば1時間に最低6人診療しなければ、採算が合いません。私は1時間に1人しか診ませんから、当然無理です。

もし保険診療で行くと、レセプト※の点数が高くなりすぎてしまいます。1ヶ月の

レセプトの平均額は決められていて、それを超えると、指導の対象になってしまうんです。これを避けるためには、患者さんを小刻みに回す必要がある。だから何回も通わせて治療に何ヶ月もかけてしまうのです。

医師は皆、患者さんの人数をこなすという、不条理にぶち当たっています。私は医療人として、徹底的に気持ちの良い医療のために、いまの方法を選びました。かかるコストは、そのためのコストなんです。

患者さんからすれば、納得できる診療であれば、保険診療も自由診療も関係ありません。そうした患者さんの願いと我々の発想が一致した時、初めてこの治療が成立します。恵比寿での15年間で、ある程度の感触をつかんでいましたし、ここに来ても決して悪くはないだろうと思いました。ただし、そのための家賃は5倍以上になりましたけど(笑)。

藤本 でも、これはよほどの自信がなければ、できないですよ。

中原 恐縮です(笑)。幸い、恵比寿での15年間に、素晴らしい人材を確保できました。現在の副院長は、私と同じレベルの診療をしてくれます。衛生士も皆、高いレベルに育ち、私を含めた5人で乗り込んで来ました。2人のスタッフは、いまも一緒です。

藤本 歯科と認知症は関係あるんですか？

中原 歯科は、全身の問題を扱わなくてははいけません。予防の観点でいいますと、歯

は細菌との戦いです。細菌に対するアプローチが万全なら、予防はほぼ100%可能です。あとは審美的な部分と、歯茎の部分ですね。歯も全身と繋がっていますが、歯茎はさらに直結しており、歯茎を細菌コントロールしても、うまくいかない場合があります。その場合は、婦人科系に問題があったり、要は、全部が関係しています。

25年の間で一番困ったのは、長い時間を掛けて治療していきますと、途中で患者さんが治療を忘れてしまうことがあるんです。つまり、認知症予備軍の方が、高齢化社会に向けて増え始めた。治療の説明をしたの



に、それが記憶のかけらもない。

これは困った時代になる、と思いました。認知症予備軍200万人に対して、認知症の専門医はまだわずか200人。ドクターが圧倒的に足りません。DNAを調べて、脳ドックを行い、血管系を全て調べることで、認知症の予備軍かどうか事前にわかれば、初期診療で対応できるのでは、と考えます。

あと、噛み合わせと脳機能は、実は直結しているんです。噛み合わせが良い人とそ

うでない人では、認知症の進行度が違うということもわかってきました。

藤本 ところで先生は、どのようにして患者さんを確保されているのでしょうか。

中原 昔も今も紹介だけです。最初、1989年の段階で記者会見を行い、雑誌『女性自身』で連載をして頂いたりしました。

とにかくまず、審美歯科というものを言葉から広めなくてはならない時代でした。掲載雑誌が一つ出て、それを見て取材が来て、また本が出て取材を受けて・・・という繰り返しを何百とやりました。最初からのプレスリリースがあるんです。全部、ホームページに出ていますよ。

藤本 すごい数ですね。最後に、今後のクリニックの方向性をお聞かせください。

中原 「自分の歯で、一生健康に過ごす」ことを目標に掲げ、そのために我々は、健康管理を中心に進んでいきたいですね。精神面も、非常に重要です。やはり通院しやすいと思って頂くことが一番ですし、それが集患に繋がると思っています。

クリニックには、医療で困ったことを家族でご相談にみえる方もいらっしゃいますし、ネットワークの中でいろいろな方をご紹介していきたいと思えます。最終的には、欧米における「ファミリードクター」的なものを目指していければいいですね。

藤本 ある意味で、全く新しい歯科のスタイルなんですね。今日は興味深いお話をありがとうございました。

※レセプト……患者が受けた診療について、医療機関が保険者(市町村や健康保険組合等)に請求する医療報酬の明細書のこと。

中原 悦夫先生は、六本木男声合唱団倶楽部の副団長でもいらっしゃいます

私は立場上、配役は皆さんにお譲りして、もっぱらお金集めだとか、いろいろと頭を下げる役割。今回は、鳩山由紀夫さんですか、著名な方も大勢出演してくださいませ。再来週は何と、このための合宿です。3日間、朝の8時から夜の9時までほとんど軟禁状態で(笑)。

先日も11時間の練習を2回やりましたけど、それでも追いつかない。はたして本番でどうなるか、団員一同、大いに不安です。当初は2公演の予定でしたが、予算が合わないだろうということで3公演やります。水曜日は昼夜2回公演なので、体力的にもつかなく・・・すごくきついです。汗だくになって、これは化粧も全部取れるなと(笑)。でも、とにかく楽しい内容です。ぜひ足をお運びください！

六本木男声合唱団倶楽部事務局

URL <http://www.rokudan-musical.com/>



戦後の日本を支えてきた
スライム男たち150人が
男女を演じる！

ウェストサイズ・ストーリー
Waist Size Story

六本木男声合唱団倶楽部
オリジナルミュージカル

2015年1月14日(水)
18:30開場 19:00開演

2015年1月15日(木)
12:30開場 13:00開演
18:30開場 19:00開演

Bunkamura オーチャードホール

チケット一般発売開始 2014年10月11日(水)



中原 悦夫 Etsuo Nakahara

1984年、日本歯科大学を卒業。87年、タフツ大学をベースにボストン大学、テキサス大学、ペンシルバニア大学、UCLAを歴訪。当時まだ体系化されていなかった審美歯科学及びそのマーケティングを学ぶかたわら、Kaji Aso Studio(ボストン美術館大学教授主宰)にて美学を学び、医学との融合を模索する。

89年、審美歯科及び予防歯科の専門クリニック「協立歯科」を設立。審美歯科とオーラルヘルスケアの普及をはじめ。92年、アメリカ美容歯科学会(AACD)より日本人で初の認定医を取得。94年、日本大学歯学部法医学教室より学位を受ける。2003年12月、「医療法人社団 協立歯科クリニック デュボワ」に改称。帝国ホテルプラザに移設。

13年4月、神奈川歯科大学客員教授に就任。14年4月、日本歯科大学生命歯学部客員教授に就任。